

平成 24 年 8 月 24 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第5回「核燃料サイクルの物質・放射線利用」研究専門委員会
開催日時	平成24年 8月 3日(金) 13:30 ~ 17:30
開催場所	東北大学(片平キャンパス) 多元研事務棟二階小会議室
参加人数	14 名 三村主査, 鈴木幹事、黒崎幹事、山岸幹事、深澤委員、森委員、佐藤委員、藤井委員、若林委員、中村委員、小山委員、大西(田中委員代理)、招へい者: 永里講師(JAEA)、大橋(オルガノ)
議 事	<p>1. 燃料デブリ性状調査・処置準備研究 JAEA 永里講師 福島第一原子力発電所1~4号機の廃止措置における研究開発の状況及び JAEA の取り組みが説明された。模擬デブリの特性、炉内状態の推定、MCCI 研究の他、デブリ処置への湿式及び乾式再処理技術の適用性を検討している。</p> <p>2. 福島概況ー汚染水中塩分除去など 日立 GE 深澤委員 原子炉建屋内の汚染水(滞留水)及び使用済燃料プール水からの塩分除去装置について、装置の概要と処理実績が説明された。</p> <p>3. 廃ゼオライトの性状と安定保管について JAEA 山岸幹事 滞留水処理に伴うゼオライト廃棄物の発熱、水素発生、腐食等の評価に関する研究、多核種除去設備 ALPS の概要と発生廃棄物の見通しが報告された。</p> <p>4. 環境回復へ向けた取り組み状況(環境省を主として) RANDEC 森委員 環境省の除染及び廃棄物関係ガイドライン、汚染環境への対処法令、除染に関する予算、体制、工程、中間貯蔵施設、減容・処理処分方法等の現状と今後の課題が説明された。</p> <p>5. 不溶性フェロシアン化物の安定固化 東北大学 三村主査 Cs を含むフェロシアン化物廃棄物を加熱分解する際に Cs の揮発が問題となるが、ゼオライトを混合して焼成する揮発抑制方法の有効性が報告された。</p> <p>6. 使用済み燃料中のモリブデンの同位体組成と医療用テクネチウムへの利用可能性 長岡技術科学大学 鈴木幹事 医療用 Mo-99 の安定供給が課題となっており、使用済燃料に含まれる Mo 同位体を用いることで、天然 Mo 同位体の濃縮操作を低減できる可能性が示された。</p> <p>7. 放射性レアメタル研究と施設整備 東北大学 佐藤委員 東北大学選研におけるレアメタル研究と核燃料・再処理研究の変遷、希土類元素精錬で生じるレアメタル含有放射性廃棄物取扱施設としての現状が報告された。</p> <p>8. その他 今後の当専門委員会のあり方について議論を行い、当委員会設立の主旨である物質・放射線利用の調査を継続するとともに、今まで培ってきた分離技術を福島に應用する貢献が現在の最重要課題であるという認識で意見がまとまった。</p>
備 考	委員会終了後、拡大幹事会を開催し、今後の取り組みを討議した。